

三十七球目

JR半田駅周辺の  
まちづくりを進めています



市長 榑原純夫

新年、あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、平成31年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、平成最後の年であり、5月には新元号を迎えることとなります。

新たな元号の初頭を飾る一大事業、「JR半田駅周辺のまちづくり」について、ご紹介させていただきます。

本市では、JR半田駅前を中心に、将来のまちづくりに向け、昨年度からJR武豊線の鉄道高架事業とJR半田駅前での土地区画整理事業に着手しています。

「鉄道高架事業」は、2020年度にJR半田駅の仮駅舎や仮線を建設し、2021年度からは高架本体工事を、また、「土地区画整理事業」は、2020年度に仮換地の指定を行い、



その後、建物移転や区画整理工事を進めていく予定です。

両事業は、ともに2027年度の完了をめざして整備を進めており、事業完了により、9か所の踏切がなくなり、区画整理区域内に新たに3か所の交差点が加わることで、合計12か所の交差道路が生まれます。

このことにより、東西交通の円滑化が図られ、中心市街地のアクセスや回遊性が飛躍的に高まります。



特に、JR半田駅南の狭く暗かったガード下は、広い歩道のある相互通行が可能な道路に生まれ変わり、市役所から西へ向かう通称平和通りは、JR線路で止まっていたものが、高架下をくぐり鉄道西側の県道に接続されます。

さらに、駅前広場、公園などの整備や、中心市街地にふさわしい土地利用の誘導により、名鉄知多半田駅周辺との一体的なまちづくりを進め、まちの魅力を高めてまいります。

◎歴史と文化を活かしたまちづくり

JR武豊線は、明治19年に東海道本線の建設資材を運搬するため敷設

された鉄道であり、駅構内にある跨線橋は、明治43年に完成し、現存するJRの跨線橋としては日本最古のものであります。

この他にも、駅北に展示してあります蒸気機関車C11や、駅構内にあるレング造りの油庫などの鉄道遺産が存在しています。

これらの保存・活用につきましては、市民の皆様といっしょに考えてまいります。

また、黒板囲いの蔵が建ち並ぶ「半田運河」では、本年より、夜の運河を散策するための街路灯の増設を行い、2021年度には、運河周辺エリアの回遊性を高めるため、源兵衛橋南の新川河口へ歩行者専用の橋を整備します。

半田の歴史と文化を活かしながら、市民が愛着や親しみ、誇りを感じられる、「未来へつながるまちづくり」を進めてまいります。

